

武藏野北高等学校 令和7年度(3学年用) 教科

公民

科目 政治・経済

教科：公民

科目：政治・経済

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～ 6組

使用教科書：(詳述政治・経済 実教出版)

)

教科 公民

の目標：

- ・共通テスト(公共・政治経済)に必要な知識・技能の習得を目指す。
- ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に關わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。

- ・現実社会の諸課題に關わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。

- ・共通テスト(公共・政治経済)に必要な思考力・判断力等の修得を目指す。

- ・主として法に關わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

【学びに向かう力、人間性等】現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

科目 政治・経済

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト(公共・政治経済)に必要な知識・技能の習得を目指す。 ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に關わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 ・現実社会の諸課題に關わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト(公共・政治経済)に必要な思考力・判断力等の修得を目指す。 ・幸福、正義、公正などに着目して、主として法に關わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学期	青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚させる。	青年期の自己の形成 第1章 自分らしく生きる 1. 青年期とは 2. 自己形成の課題（1） 3. 自己形成の課題（2） 4. 職業生活と社会参加	【知識・技能】倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究し、自己の在り方生き方と関連しながら考えようとしている。				
	世界の主な国の政治体制を比較しながら理解させるとともに望ましい政治や主権者としての参政の在り方について考えさせる。	現代の民主政治と日本国憲法 第1章 現代国家と民主政治 1. 民主政治の成立 2. 民主政治の基本原理 3. 民主政治のしくみと課題 4. 世界の主な政治制度					
	激動する経済社会について、様々な角度から理解を深めさせ、個人や企業の経済活動における社会的責任について考察させる。	現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 1. 経済主体と経済活動の意義 2. 経済社会の変容 3. 市場のしくみ 4. 市場の失敗 5. 現代の企業 6. 国民所得 7. 経済成長と国民の福祉 8. 金融の役割 9. 日本銀行の役割 10. 財政の役割と租税 11. 日本の財政の課題		○	○	○	23
	金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について理解させる。						
	人類の福祉という観点から、科学技術はどのように利用されるべきかを考察させる。						
	情報化社会における課題を踏まえたうえで、情報化社会に生きるためにモラルやルールについて、どのような規制や法整備によって調整をおこなっていくべきか考えさせる。						
	定期考查			○	○		2

2 学 期	先哲の思想や宗教の意義に触れ、人間としていかに生きていくべきかを考察させる。 現代社会で「正義」「公正」「幸福」はいかにすれば達成されるのか、さまざまな思想家の主張を比較・考察させる。	人間としてよく生きる 1. 哲学と人間 2. 宗教と人間 3. 科学と人間 4. 自由との実現 5. 人間と幸福 6. 人間性の回復と主体性の確立 7. 他者の尊重	【知識・技能】倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究し、自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。	○ ○ ○	24
	議会制民主主義と権力分立について、その意義や多数決の原理と運用方法などについて理解するとともに、民主政治の権力分立の意義を法の支配や基本的人権の保障と関連づけて理解を深めさせる。 国際経済は、輸入品の価格や海外旅行など身近な例を挙げて解説する。 情報通信技術の発達や世界的な規制緩和により、経済のグローバル化が展開していることに注目するとともに、地域的経済統合が進展する背景や影響について考察させる。 経済協力や国際的な援助の在り方について、国家間の方策だけでなく、NGOやNPOなども重要な主体となっていることを、その理由とともに考察させる。	日本人としての自覚 1. 古代日本人の思想と 仏教思想の展開 2. 外来思想の受容と日本の思想 政治機構と政治参加 1. 政治機構と国会 2. 行政権と行政機能の拡大 3. 公正な裁判の保障 4. 地方自治と住民福祉 5. 政党政治 6. 選挙制度 7. 世論と政治参加 国際経済の動向と国際協力 1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. こんにちの国際経済 5. 発展途上国の諸問題 6. 経済協力と日本の役割			
3 学 期	定期考查			○ ○	2
	共通テスト対策および私大、国公立大2次試験対策を行う。	演習		○ ○ ○	18
	定期考查			○ ○	1
					合計
					70